

平成 28 年度佐渡市第 2 回将来ビジョン等策定・推進会議 会議録（概要）

- I 会議の名称 佐渡市将来ビジョン等策定・推進会議
II 開催日時 平成28年11月18日（金）午後2時から午後3時30分まで
III 場所 佐渡市役所3 階 大会議室

IV 議事

1. 開会
2. 議題
 - (1) 佐渡市将来ビジョン（素案）について
 - (2) 意見交換
3. その他
4. 閉会

V 出席者

別紙名簿のとおり

VI 会議の概要

●議事

- (1) 佐渡市将来ビジョン（素案）について
 - ・ 前回会議におけるご意見と対応方針について
 - ・ 市民アンケート集計結果について会議資料により説明

(2) 意見交換

(委員)

全体として佐渡が他の地域と差別化して優れている大きなコンセプトを出さなければいけないと強く感じる。そのことによって定住人口や交流人口の増加、さらには外貨の獲得により、資金を島内で循環させていくことが描けるが、中心軸になるコンセプトが弱いと感じる。環境と経済の融合ができる島というイメージを中心コンセプトに据えて欲しい。環境という問題は、この後、世界的にもかなりクローズアップされてくる問題であり、確実に一つの地域、一つの島でできていったとすると、交流人口、定住人口の増加に確実に繋がっていくと他の地域の事例をみても感じる。素案の各所で出てくるが、地域資源の活用は全くその通りで、外からみるとこんなに優れた地域資源が歴史文化を含めてある地域は少ないと思う。特に優れているのはトキという環境のシンボルであり、日本で唯一発信できる地域ということを活用しないでどうするのだという感じがする。トキをシンボルにできる唯一の地域として地域資源を如何に活用するかという観点からも環境という中心コンセプトが必要ではないか。その方向でビジョンを定めて、行政や経済団体等が一つの方向に進むことによって他の地域とは違う差別化戦略が描ける。それが大きな柱建てのところでお願いしたい。

その関連で、素案の概要の5ページ、外貨の獲得のための島外販売と島内循環の強化で、一番下の高付加価値化の関係はここにあってもよいが是非上にも記載をしてもらいたい。外貨の獲得のためにもこれはとても大事なことなので、ご検討をいただきたい。

もっと言うと島内で資金が循環するシステムづくりでは、エネルギーの自給を目指せないかということ。全面的に自給が難しいことは百も承知だが、これを佐渡という地域でできるということは林業を含めて活性化に繋がる可能性があるので、可能性に向けて挑戦をするには、エネルギーの自給についても加筆いただけないか。

(佐渡市)

コンセプトについては、少し総花的で分かりにくくなっているかもしれないので、次回までに検討して、事務局としての考えをお示ししたい。2点目については、ご指摘を踏まえて書きぶりの修正をさせていただきたい。

(委員)

この資料の最後の未来につながる人材育成と確保ということで、先般、畑野中学校と赤泊中学校が新聞にも出ていたが、職場体験が非常に良いものだと思うので、この辺りを強化していただきたいと思う。

素案とは直接関係ないが、特に中学校の統廃合の関係、今回素案にはないが、いずれ将来ビジョンの中で中学校の統廃合が出たときには慎重な議論等を地域、学校を含めてしていただいて、慎重に対応していただきたい。

(委員)

先日、キャリア教育の関係で職業体験授業をやったが、子どもたちにとっては幼い時の体験が生きてくるのかなと思うので、これからも続けていきたいと思っている。

将来ビジョンに関して、方向性としては非常に良いと思っている。大切なのはこれをどう生かしていくか、どう実現していくかということ。将来ビジョンを市民に広く見せるのであれば、ここの部門、この文言はどこの課の担当であるということが明確になると、例えば第二創業はどこの課へ行けばよいということが分かりやすくなると思う。

(委員)

このビジョンの計画期間が平成31年度ということになっているので、内容は今すぐやれることになってくるかと思う。特に水産関係については、最近温暖化の影響で魚種が変わっているということが背景にあるが、販売部門が若干弱いということなので、結果として、漁業者の所得向上に結び付いていない。だから、漁業を止めるとか、新規の漁業者もなかなか増加しないことがあるので、素案の29ページに謳われているが、加工の面、鮮度保持の問題、この取組をこの期間中に規定するべき思う。

鮮度保持について、島外では魚の活締めをしないと高付加価値で売れないという現状を踏まえて、新鮮な魚を出して、結果として値段に跳ね返ってくるということをこのビジョンの期間に何とか達成しなければいけない。

養殖について色々な構想はあるが、この期間にはその努力はしなければいけないが、現実的には達成するのは無理な気がする。ビジョンの3年間の計画期間のものについては鮮度保持ということで良いのかなと思う。

(委員)

現状、佐渡の森林組合は4つに分かれているが、合併して一つにし、強い力を出すようにこれから工夫をしていかなければいけないという話が進められている。是非とも合併の成功になるように市も協力をお願いしたい。

(委員)

特に孫ターンのような方が佐渡に入ってくる現実を考えるとこの後、定住人口、交流人口を拡大する可能性は大いにありと確信めいたものを感じている。そのためには佐渡というのはこういう島だということの差別化のイメージを強化していかなければならない。自然エネルギーについても調査研究となっているが、調査研究ではなくて、挑戦的な実践をすべき時であると思う。その原動力は中心的なコンセプトであろうと考える。

(委員)

佐渡は空路が休んでいて、航路が3つあるが、残念ながらうち2つの航路は不安定な状況にある。昨年、高速カーフェリーを走らせたが、2.5m以上の波高になると欠航や船酔いということで、今年は利用が減少している。こういうことの解決を国、県、市が一緒になってやっていかなければいけない。

交流人口を増やす必要があると言いながら、島外から来る人がジェットfoilを利用する場合や、車の航送する際の料金が低いということではなかなか来にくいという状況がある。インバウンドの強化を謳っておりながら、海上運賃が高いのでなんとかならないかということで、一つのネックになっている。

佐渡産品の消費の仕方、海産物や農産物を出来るだけ提供することは非常に大事なことである。そのためには市、行政の思い切った助成がないとなかなか進まない。スローガンは非常に良いが、具体的に実行できるように、予算を増やしていくとよい。

佐渡版DMOを盛んに謳っているが、佐渡観光協会との棲み分けがどのようになるのか不安定な面があるので、早く市の方で方針を打ち出して欲しい。

(委員)

産業の振興についての記載があるが、商工業の振興の部分がボリューム的に見て、少

ないように感じる。農林水産業は当然に基幹産業であるが、企業が島の雇用を支えている面も非常に大きいと思うので、起業・第二創業の推進、6次産業化を中心とした高付加価値化の推進というキーワードはあるけれども、商工業の振興全般についてももう少し書き込んでいただくよう検討願いたい。

(委員)

素案4ページ、新潟県市民経済計算の数字で「特に建設業及びサービス業の占める割合が増加している」という表現があるが、「高くなっている」という表現に変えられないか。平成24年度は災害があったために一時的に高くなっているが、25年度に比べると27年度決算では建設業の売上が約半分になっている。市内での総生産額の内、建設業やサービス業が高い位置にあるため支援が必要である、というような施策の組み方の考え方として書き込んでいただけないか。

素案42ページ、災害に強い島づくりで、建設業、建設工事のことを書いていただいているが、公共施設等総合管理計画でも現在40億円が不足している中で、インフラの老朽化への整備が大幅に遅れている、それをどうするかをしっかりと考えていただきたい。この対策はとても重要ではないかと考える。

素案21ページ、22ページに定員適正化計画があるが、21ページには計画との差が書いてあるが、22ページの表においても計画との差を記載するべき。実はこれだけ達成していて、成果がプラスに現れているということをもっと強くアピールしてよいのではないか。

素案32ページ、ア 市民が佐渡の物を消費する仕組みづくりは、佐渡で循環させるために1,000億円の島外へ流出するものを島内で回そうという取り組みである。北海道ではかなり前から地元の物の購買運動をアピールしていたが、2、3年前から産業振興課で取り組んできた。この中に、野菜の自給率のアップを農林水産と併せて検討し、施策をJAや普及センターと一緒に取り組めないか。カロリーベースで計算するために日本の自給率は40%だが、消費ベースでは60%の自給率である。消費ベースでのものをやれば、葉物野菜関係を一生懸命作ると、十分評価になって現れると思う。

(委員)

最近の経験からインバウンドの強化について、外国人旅行客の誘客が大事であるということは十分に理解しているが、文化の違いを理解していないことから、通じ合えないということがたくさんあった。日本人であれば当たり前、佐渡のおもてなしの中では当たりの前だが、来る人にとっては当たり前ではない。外国人観光客に是非来てほしいと、様々なことを整備するのはいいが、佐渡のおもてなし、佐渡の文化がこういうものだと相手にも理解してもらわないと、恐らくリピーターにはつながっていかない。

単純に時間の感覚が違っていたりするため、様々な受け入れ環境を整えることは大事

だが、お互いが理解しないと次に繋がらない。

連日、高齢者の交通事故が報道されているが、元気な高齢者がたくさんいる佐渡だからこそ気をつけなければいけない部分が近くにある。

(委員)

行政改革については、行政のサービスや佐渡市のあり方について、市民が参画することは当然必要なことである。具体的に行政でどのような形で市民の参画を企画されているのか、お聞かせいただきたい。市長の下に任意によるタスクフォースのような、行政や様々な会社、市民個人が参画するようないくつかのグループがあって、そこで意見を交換しながら、1年、2年とまとめていったらいかがか。

素案の27ページ以後で、産業の振興等が記載されているが、非常に文章が分かりにくい。一つの段落の中で、ニュアンスが違う事の一つにまとめてあるため、わかりづらい。27ページの中段以後、「佐渡版DMOの構築を進める中で、各種データに基づくターゲット別の戦略を構築し、1次産業や地域などと連携した滞在交流型観光を推進する。」とはどのような意味か。

その3行下に「これまであまり活用されてこなかった島内の有形無形の文化財を積極的に活用する～」とあるが、これの具体的なことは何か。

以前の移住の形態と今の移住者はスタイルが変わっている。以前は、東京で仕事をある程度終えてきたという方が多かったが、現在は孫ターンや20代から30代の方が結構多く佐渡に移住している。それに対応するには佐渡の行政施策、佐渡で今まで行われてきた島民のためのサービスを移住者、観光者の目から洗いなおす作業が当然必要になってくると思う。今後の人口減少が予測される中で、移住者や観光者の増加が大きな佐渡の柱になるわけで、具体的なことをもっと強化して記載されてはどうか。

地域おこし協力隊の文言が頻繁に出てくる。この3年間で協力隊の第1期生が卒業したが、佐渡市としてどのように総括しているのか。他の自治体の例では、必要な業種に特化して人材を協力隊員として募集している。隊員が来てから考えるのではなくて、初めから佐渡に必要なターゲットを絞って、例えば観光の経験がある人を何人募集する、農業関係の指導ができる人、編集経験がある人を何人募集するというような協力隊でなければ、本当に有益な人が佐渡へ来て佐渡を活性化することに繋がらないと思う。幸い佐渡は人気があって多くの協力隊が来ているが、それを具体的な戦略として佐渡市が立てていくことが必要ではないか。

観光に関して、個人旅行者の一番の佐渡の不満は佐渡だからこそのお昼を食べるところがないこと。本当に個人旅行やグループ旅行の増加に焦点を当てるのであれば、佐渡の安全・安心な食を食べさせる、佐渡だから食べられる場所を提供しないといけない。文化庁が示している世界的な観光地、日本の中の観光地では、最低4つの条件がそろっていなくてはならない。その第一は自然。第二は気候、佐渡の冬は少し厳しいが、それ

以外は満たしている。第三は文化であるが、世界的3資産に代表される文化ではなく、深い歴史を踏まえた中で育まれた、佐渡の人にとっては当たり前のこと、町並みや話し方すら島外から来た人にはものすごく新鮮である。文化を強く訴えたい。素案に書いてないのは食だ。4つの条件とは自然、気候、文化、食で、これが揃ってないと観光客は来ないとされている。ところが素案には食がどこにも入っていない。食べることの重要性を考えていただきたい。

個人旅行については、レポートしたいと思わせる場所にしないと意味がない。もう一度来たい、あのの人に会いたいということになれば、やはり人や佐渡の暮らしをどうやって訴えるかということをお客が力をいれないとレポートはなかなか難しい。

(委員)

何が問題なのかと考えると一番は人口の減少である。人口の減少は、独身者がいっぱいいて結婚をしないこと。何をやるにしても人口がなければ何もできない。人口が少なければ何も先へ進まない。子どもを少なく生んで、良い学校へ出して、いい企業へ就職させたいと考えるのが普通の人である。そうすると学校へ出たらもう佐渡へ帰ってこない、だから定住人口は少なくなるのではと思う。

(委員)

子育て支援について、保育園や学校が終わってからの環境は充実してきているが、いじめなどの問題をみると、最近の子どもは人間性に欠けているのではないか。施設ばかりを充実させることも大事だが、子どもは母親が一番。子どもと触れ合う母親の限られた時間の中で、母親はこうあるべき、子どもの求めているものがわかる母親、母親のスタートをどこかで教えてくれる場所や機会があってくるとありがたい。仕事と家庭を両立してその他にということは大変だが、心の中に子どもをこうして育てて欲しいというハートさえあればいくらでもできるはず。

地産地消について、生産者を訪ねて、佐渡の作っている人を理解する必要がある。作っている人の苦勞を見ると絶対佐渡の物しか買えなくなる。最近、様々なところで地場産の店が出来ていることは本当にうれしい。将来ビジョンを作ったことと同じで、どう活かすかということ。地産地消と同じで、意識を変えればできる。以前はそうでもなかったが、どこの店へ行っても地場産のコーナーができたり、地場産の店が出来たりしたのと同じように、将来ビジョンも意識を変えることが大切。ビジョンを作るだけではなく市民へ下ろして行って、みんなが共感できるようにして欲しい。

(委員)

市民アンケート集計結果で市民が不満に思っている割合が高い項目として、佐渡航路や航空路の整備に関する事、雇用就業の場の確保に関する事が上位に来ている。ビ

ジョンの素案の中で、航路や空路の公共交通の整備や佐渡航路運賃の低廉化については具体的な施策が明記されているが、雇用就業の場の確保について、あまり強く打ち出されていないと感じるので、検討願いたい。就業の場がない、雇用の場が増えないことが一番の問題ではないかということがアンケートでも多かったということ。是非とも不満に感じている割合の高い項目を特に検討していただけることが一番大切かと思う。

(委員)

項目建てとしてはよくできていると思うが、これをどう有機的に繋げていくか、各課の繋げ方を見える形で市民に提示していただきたい。本日いただいたご意見については、事務局で整理をして原案に反映させるなど次回会議に回答をお願いしたい。

(佐渡市)

ご意見の整理をしてできるもの、できないものを書いて次回にご説明をさせていただきたい。このビジョンは、平成 21 年に 10 年間の目標で立てられ、平成 25 年に財政規模等が変わってきたため、見直しをした。今回、国の交付税が大きく変動してきたことや市長が選挙で交代したこともあり、市長の施策が変わったことやリーサス等で佐渡の課題が見えてきたことを踏まえてビジョンを見直すということ。決して 3 年間のものではなくて、ずっと続いているものを今修正しているということでご理解をいただきたい。新たに作るのではなくて、継続しながら順次適切に変えていくというイメージであるということをご理解いただきたい。

委員から具体的に記載すべき、というご意見について、項建てとして出来るだけ入れるように努力をしていきたいと思うが、ビジョンの下に個別計画が結構ぶら下がっている。このビジョンはこういう方向でやっていきたいということで、こういう方向に向かって子育ての計画があったり、それがどんどん反映して具体的な計画が連なっていくということがある。若干具体性に欠けるところがあるかもしれないということはある。具体的なものを入れていくと辞書のようなになるので、このビジョンについては基本的に方向性が記載されているが、ご指摘の点はできるだけ直していけるようにして参りたい。

何をやるのか分からないというご意見もいただいたが、最後の段階でこのビジョンをもとに来年度の事業を作っていくことになる。皆様にご議論いただいたビジョンの方向に向かって来年度こういう施策を組みますというところは、最後の会議の中で皆様にお示しして、施策に対してもご意見をいただきたい。

3. その他

(佐渡市)

今後のスケジュールとして、本日素案を提示してご意見をいただいたので、どう盛り込むかを含めて再度議論をして、11 月 30 日に市役所の内部会議を行い、皆さまのご意

見を反映したものを12月に議会に示して参りたい。その後、パブリックコメントで市民の意見を聞いて修正しながら、1月中にこの会議でご説明をしたい。その後、2月の最終報告の段階で施策も一定程度出てきていると思うので、皆様方に平成29年度施策と併せてご説明をしたい。その後、政策予算事業の発表とビジョンを併せて公表していきたいと考えており、ビジョンに書いたものを具体的にどうやるのかというものを見えるようにしてお示ししていきたい。

4. 閉会